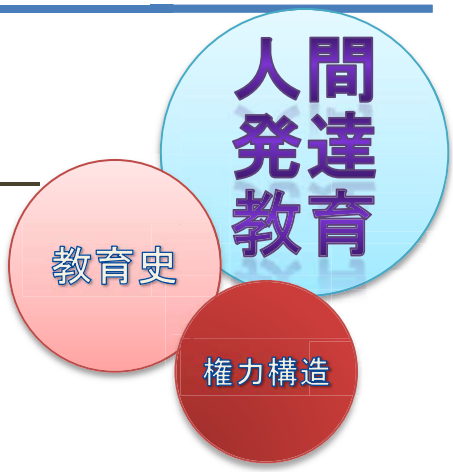
河田　敦子　/　KAWATA, Atsuko

人間発達教育研究センター



■研究者情報

連絡先

Email : kawata.atsuko@ocha.ac.jp /TEL:03-5978-5539/FAX: 03-5978-5539

専門分野

日本教育史･教育行政史･教育制度史･教育政策史･ジェンダー

■研究成果情報

近代日本地方教育行政における権力構造/近代日本における「公･私」の構造

キーワード

権力構造　公私構造　地方教育行政　山県有朋　森有礼　幕末明治期の女性の教養形成

研究内容

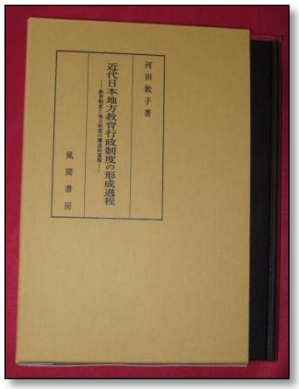
■概略　近代日本において形成された権力構造を教育行政の観点から研究し、日本における「公･私」の構造を解明することを目指しています。それにより、現代日本社会において、民主主義思想および個人の権利意識が未成熟であること、女性の地位が低いことの原因を解明する糸口となると考えています。

■主要著書

① 2011年　河田敦子著『近代日本地方教育行政制度の形成過程』風間書房

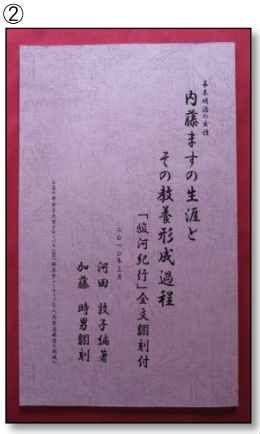
②2010年　河田敦子編著･加藤時男翻刻『幕末明治の女性　内藤ますの生涯とその教養形成過程ー「駿河紀行」全文翻刻付ー』お茶の水女子大学グローバルCOE「格差センシティブな人間発達科学の創成」

①



【目的】
･近代日本における権力構造を地方教育行政制度の観点から、1880年代におけるその制度形成過程に着目して明らかにする。
【意義】
･先行研究では、「教育行政の一般行政への統合」と捉えられてきた同時期について、権力構造を政策的に形成したのが山県有朋であり、それがどのような構造であったかを町村レベルの実態調査に基づき明らかにしています。

②



【目的】
･明治初期の山梨県において女子教育の先駆者となった内藤ますという女性の幕末期の教養形成過程を調査し、明らかにする。
【意義】
幕末明治という過渡期に女子教育の必要性を説いた稀有な一民間女性の自筆の旅日記をもとにした研究であり、女子教育へ主体的に関与した女性についての研究として意義があります。

特許・著作物等の知財情報、製品化情報、あるいは社会貢献実績

･お茶の水女子大学グローバルCOEが刊行したPROCEEDINGSの中で、No.09（英文モノグラフ･2009年）、No.10（セミナー･シンポジウム報告書･2009年）、No.13（英文モノグラフ･2010年）、No.15（公募成果論文集･2010年）の編集実務を担当しました。

産学官・社会連携の可能性

･筆者は、2011～13年度科研費（基盤C)を「近代日本地方教育制度形成期における森有礼と山県有朋」というテーマで取得しています。加藤時男氏に協力を依頼し、他の地方教育会に関する研究者の助言を受け、研究を発展させていきたいと思っています。
･上記内藤ますの研究については、近世史および近世女性史研究者の方々からコメントを頂きました。今後も近世から近代への移行期におけるジェンダー構造の変動とそれが女性の生き方に与えた影響についての研究を、近世女性史研究者と連携しながら深めて行きたいと思っています。